

# よえもん

2016年2月

第 34 号

## 今月のことば



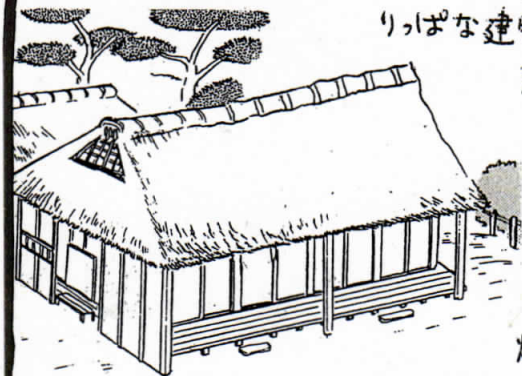
シリーズ  
よえもん

とうじゆしん  
藤樹書院



いさ  
久さんを亡くした藤樹先生にとって、子どもの世話をしながら、  
門人を教え、学問にはげむことは、大変な苦勞でした。  
そこで、先生は大溝藩士の別所家の娘、布理さんと  
再婚することになりました。しっかり者の布理夫人は、ささく  
家事をこなし、子どもの世話もしました。そして男の子が  
生まれて、藤樹先生の家庭は、たいそうにぎやかになりました。

布理夫人がとついできたころ、藤樹書院の建築が進め  
られていました。現代という私塾で、当時(1648年)としては、  
りっぱな建物でした。



新しい教育の場が  
できあがり、先生と  
門人たちは、喜び  
合いました。

この書院は、  
明治13年に火事で  
焼けてしまいましたが、

その2年後に再建されたものが、現在の書院です。記念館から  
歩いて7分くらいのところにあり、地元のボランティアの方が、教えを  
伝えています。

## 記念館だより



先日、早朝より「高島掃除に学ぶ会」の皆様が  
記念館のトイレ掃除をしてくださいました。  
きめ細やかな真心のこもった掃除に  
大変、感謝しております。

寒さ厳しい中、本当にありがとう  
ございました。

きれいに使うように

心がけたいと思います。



世をわたる  
ひとつの星や  
時の中道の心は  
身の舟のかぢ

出典・中江藤樹の和歌

これは、藤樹先生が26歳の時に、弟子の小川子に  
与えた手紙にしたためた和歌です。

意味は、「ひとつの星(目標)を見つめ、  
中庸(心構えが中正で、いきすぎや不足のないこと)  
の心に従って身の舟のかぢをして行けば、  
その時その時の最良の行動がとれる。」  
ということになると思います。しかし、誰もが  
中庸の心を備えているわけではありません。  
私たちは、いろいろな目標を持って人生の航海  
をしています。そして、その目標は、その日その日の  
生活を支配しています。そこで、しっかりと  
目標を立て、日々私利私欲を捨て、  
中庸の心をきたえ続けることが大切だと思  
います。

## 記念館だより

記念館からみえる藤樹神社境内の  
広場周りに、梅の花が咲きはじまりました。  
寒い中にも春が近づいているようです。